

令和2年度 胆振地区の研究活動

研修部長 苫小牧市立拓勇小学校
校長 松井操 人

1. はじめに

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は地区研修部長会議など会同する活動を行わないことになった。そのため、例年開催している管内教育研究大会も中止とし、北海道小学校長会教育研究胆振・苫小牧大会を開催した昨年度に引き続き、各市町校長会単位での研究を行うこととした。

2. 研究計画

(1) 活動方針

教育改革に向けた諸課題の解決と創意工夫ある学校経営を目指す校長の在り方を追究するために、胆振管内校長会として組織を生かした研修の活性化を図り、絶えず校長としての職能の向上に努める。

(2) 基本主題

「新たな時代を切り拓き 共に支え合い 生き抜く力の育成を目指す学校教育の推進」
～全ての児童生徒に確かな学びの力を身に付けさせるチーム胆振としての学校改善～

(3) 本年度の研究推進

- ① 第7期研究計画（5か年継続研究）の最終年次として、これまでの研究の成果と課題を踏まえながら、その改善策の検討と新たな課題の明確化に努める。
- ② 第20回胆振管内校長会教育研究大会を会員各位の理解と協力を得ながら開催し、第7期研究をまとめるとともに、その成果を各校の学校経営に反映させていく。 **→中止**
- ③ 第7期までの成果と課題を踏まえ、第8期研究計画の作成について検討する。
 - ・第8期研究計画策定委員会を設け、検討する。
- ④ 全連小や道小、全日中や道中、各市町校長会との連携を密にし、一貫性のある教育研究の推進を図るとともに、研究成果の還流・交流に努める。
 - 当該教育研究大会の参加要請を積極的に受け止め、多くの会員の参加を目指す。
 - 提言者等については、会員の個人的負担とならないよう組織的に対応する。
 - ・令和2年度 道中函館大会 提言：胆振中部校長会（登別市）
※第5分科会「家庭・地域や校種間における連携・協働の充実」
 - ・令和3年度 道小石狩大会 提言：胆振中部校長会（白老町）
 - ・令和4年度 全日中北海道札幌大会 提言：胆振西部校長会（壮瞥町）
道小旭川大会 提言：胆振西部校長会（伊達市）
- ⑤ 管内研修部長研修会を通して研究の推進と交流を図るとともに、管内教育の実態把握と情報交流に努める。
- ⑥ 各市町の研修部長相互の連携と協働を生かしながら、活動・事業推進計画に基づく業務を推進する。
- ⑦ 研修部報「いぶり」を適時適切に発行する。

3. 研究活動

今年度は管内教育研究大会を行わず、市町校長会単位で研究を推進することとしたので、管内各市町校長会の研究主題を以下に掲載する。

<胆振管内各市町校長会の研究主題>

- 豊浦町校長会 豊浦町の教育重点施策及び胆振管内校長会の研修活動・業務推進計画を受け、町内及び管内の各校間の交流と研修を推進し、自らの資質向上と組織体として教育の今日的課題の解決を図る
- 洞爺湖町校長会 校長のリーダーシップによる学校改善
- 壮瞥町校長会 ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を切り拓く子どもを育む学校運営の推進
～小中一貫教育と地域とともにある学校づくりを目指して～
- 白老町校長会 活動方針に基づく具体的取組を通し、白老町学校教育の充実・発展を目指し、職能を高める研究と実践を積み重ね教育条件の整備と改善を図る
- 安平町校長会 安平町の教育の現状を踏まえ、未来を心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成を図る創意と活力に溢れた学校経営の創造
- 厚真町校長会 「自立して社会で生きていく基礎を育み、新しい時代を担える子どもの育成」の具現化を進める学校教育の推進
- むかわ町校長会 ① ふるさと「むかわ」のよさを知り、新しい「むかわ」を築く児童・生徒を育てる教育の推進
② 「学ぶ意欲」と「優しさ」にあふれ、「元気いっぱい」に活動する児童・生徒を育てる教育の推進
- 室蘭市校長会 『新たな時代を切り拓き 共に支え合い 生き抜く力の育成を目指す学校教育の推進』
～全ての児童生徒に確かな学びの力を身に付けさせるチーム室蘭としての学校改善～
- 苫小牧市小学校長会 苫小牧市の未来を切り拓く小学校教育の創造
～校長としての職能・資質向上を目指して～
- 苫小牧中学校長会 未来を拓き、確かな学びの力を育てる中学校教育の推進
- 登別市校長会 自ら心豊かに生きる人間の育成を目指す学校経営
- 伊達市校長会 地域に根ざし、地域と共にある創意と活力に満ちた学校経営の推進

4. おわりに

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、道小、道中をはじめ、全連小、全日中においても、会同しての研究大会の中止を余儀なくされ、紙上発表の形態で研究の発表や交流が行われた。

管内校長会教育研究大会も中止としたが、紙上発表は行わなかった。そのため、今後は各市町校長会の今年度の研究内容を集約し、交流を図っていく。それらを踏まえながら第8期研究計画の策定を進めていくが、コロナ禍の現状に合わせて教育研究大会の開催の仕方についても見直しを図る必要があるようである。